

## (27) 医学教育における授業モデルの検討

医学教育FD/ICT活用研究委員会は、22年7月、9月、11月、23年1月の4回開催し、「学士力(モデル・コアカリキュラム)の実現に求められるICT活用の授業モデル」の検討を行った。

患者中心の医療、安全性への配慮、自ら問題を発見し、問題解決に取り組む姿勢など、社会から求められている医師の素養と能力を身に付けさせる授業モデルを3例とりあげることにした。

一つは、基礎医学が臨床とどのように関連づけられるかを理解させるために、初年次教育で一次的救命措置(心臓蘇生演習)の演習を行い、グループで基礎医学の重要性について対話の中で確認させ、その学習の内容をLMS上の掲示板に発表し、グループ相互で学びの重要性を理解させる授業モデルとした。

二つは、総合医療の観点から異なる学部(医学、歯学、薬学、看護)の学生とチームを構成し、模擬患者を対象にPBLチュートリアル学習を行い、他職種連携によるチーム医療の能力を身に付けさせる授業モデルとした。

三つは、医師としての考える力を高めるため、基本的な診断技能における問題発見、課題探求、問題解決できる能力を身に付けさせるため、TBL(Team Based Learning)を行うチュートリアル学習の授業モデルとした。